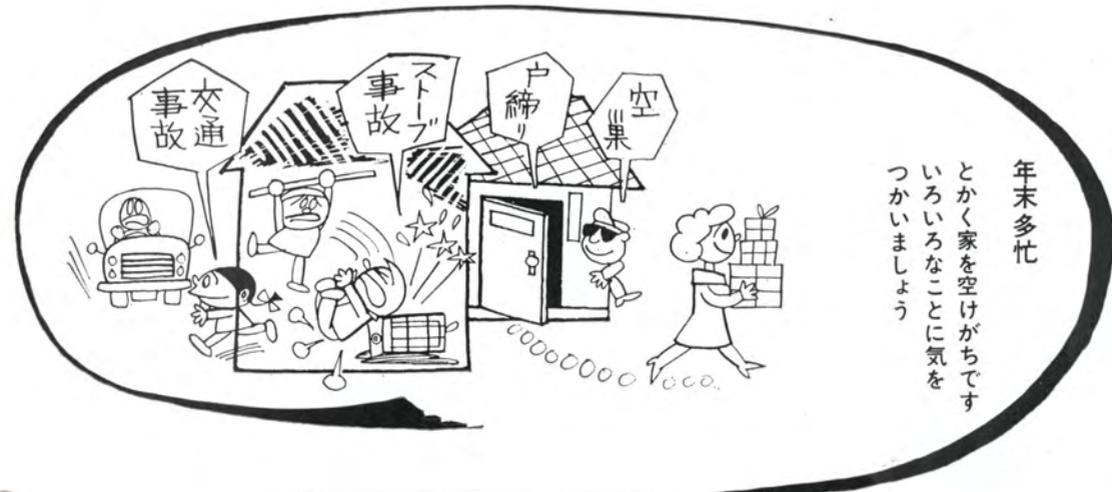
みんなの県政

45／12
No.・24
富山

知事さん　こんにちは　―二上青少年の家で―

二上青少年の家では、卒業シーズンを前に小学校生徒たちの宿泊研修で大にぎわい。11月11日、中田知事は、ヒョッコリ青少年の家を訪れ、施設を視察したあと児童といっしょに食堂へ。

このあと、即席の〝チビッコ知事に聞く〟が繰り広げられ、児童たちからは、「富山県のスポーツ水準はどうして低いの」「富山飛行場を大きくしてください」「富山県には文化施設がたらないのでは」などと、おとな顔負けの意見が次つぎと飛び出した。（中田知事と語り合う高岡市平米小のよい子たち）

みんなの県政　（№24）

12月号もくじ

表　紙・富山の干し柿

表紙説明

富山の干し柿

砺波平野の南部山麓一帯は、柿の木が多い。とくに福光町周辺では、渋柿の生産が盛んである。

晩秋、南向きに建てられた小屋に、糸に柿をつるした竹の棒がぎっしり並ぶ。そこには晩秋の日ざしがはえ、おもしろい幾何学模様を画く。

柿はこの地方独特の寒風で干しあげられ、その後室内で、殺菌処理され、風味豊かな飴色となって白い粉が吹く。正月には「富山の干し柿」の名で全国に出荷されて、名声を博している。

干し柿にはこんな由来がある。むかし１人の巡礼が諸国を巡り、越中の国福光町へ杖を入れ、干し柿の製法を教えたのが始まりだという。

なお、いまから 300年前のこと、加賀藩３代目藩主前田利常公が鷹狩りにお立寄りの際、ご休息の折一老爺が手製の干し柿を差しあげたところ大変絶賛され、それ以来前田家に献上されていた。

最近の県政から

あいさつする中田知事

社会福祉大会ひらく

身体障害者福祉法施行20周年を記念した第19回富山県社会福祉大会は，10月30日魚津市民会館を主会場に行なわれました。

午前10時から，心身障害者の福祉増進，児童の福祉増進，老人の福祉増進，住民のしあわせを高める　の４研究部会に分かれ，意見発表や討議がありました。

午後からは，中田知事のあいさつのあと，社会福祉に功労のあった能松義次氏（高岡市）ら20人に知事から感謝状が贈られました。

婦人から活発な意見

上市　井波で婦人県政公聴会

婦人の声を県政に反映させようと、県では11月24日上市町、26日井波町で婦人県政公聴会を開催しました。

公聴会には、中田知事をはじめ、各部室長が出席し、それぞれが関係の質問に答えるという形で行なわれました。各会場では、婦人らしい身近かな、きめの細かい問題について活発に意見や要望が出され、各会場とも予定の時間を延長するという熱心さでした。

県では、これらの意見や要望を参考にしてよりきめの細かな県政を推進することにしております。

物価や公害など身近かなことに質問が集中（上市会場）

新鋭農機具の展示風景

にぎわった農業祭

即売品や機械に人気

第８回富山県農業祭は，11月10・11日の両日，県民会館で開かれました。

各地区ごとに出品された特産物や農作物の展示即売に人気が集中。開場と同時に押しかけた人たちによって，ナメコ，ワサビ，ハクサイなどの季節ものが，飛ぶように売れていました。

これらの展示即売のほか，県内農林漁業の現況紹介や各種農林業機械，電化器具なども展示され，とくに江戸中期から明治にかけての農具も陳列され，農林漁業の発展ぶりが人目をひいていました。

若年労働力確保にと

東北・北海道で就職者父母の会

県では，東北・北海道から県内企業に就職している若い人たちの父母350名を招いて，10月29日弘前市，11月10日函館市，13日帯広市において，「富山県民父母の会」を開催しました。

これは，若年労働力の不足が深刻化しているため，毎年，東北，北海道から多数の学卒者を受け入れていますが，その方々が職場で元気に働いている姿をスライドやテープに吹込んで声の便りとして，わが子の近況を知らせ，安心してもらうとともに，富山県の概況を紹介して，こんご一人でも多く富山県に就職してもらおうと，滝本県商工労働部次長らが出席して行なわれたものです。

県の概況を説明する滝本商工労働部次長

「親子体操」も楽しく

2,000人が参加

滑川で体力つくり県民大会ひらく

第２回体力つくり県民大会は，雲一つない秋晴れの10月25日午前９時半から，滑川中学校グラウンドを主会場に，県下から2000人が参加して繰り広げられました。

この大会は体力つくりを国民運動として広く県民の方に知ってもらい，自主的に体力つくりのムードを盛り上げようというもので，開会式のあと参加者全員がラジオ体操をし，小学生450人の「なわとび体操」幼稚園，保育所園児とおとうさんお母さんの「親子体操」中学生の若い力あふれる「躍動」，婦人会300人の「新作バレーボール体操」と，この回の新しい試みとして八尾中学校生徒150人のおわら踊りを体操にした「民謡体操」が力強く披露されました。とくに，これから県内に広がってゆくであろうこの民謡体操には，盛大な拍手がおくられました。

また，第二会場の滑川市民会館では，体力つくりの研究討議が行なわれました。

早く実現したい北回り新幹線

交通網の整備は、県勢発展のきめ手であるといわれています。
そこで、県では、三大都市と本県を一日行動圏にしようと、東京—富山—大阪を結ぶ北回り新幹線の早期実現を関係機関に働きかけているところです。
実現すれば東京や大阪が日帰り圏内になるという北回り新幹線の役割りは、七十年代における富山県勢発展のカギをにぎるといっても過言ではないでしょう。

東京—富山—大阪を三時間

北回り新幹線は、東京を起点に、埼玉、群馬、長野、富山、石川、福井、滋賀、京都を経て大阪にいたる、日本海側を通過する画期的な鉄道です。しかも現在の東海道新幹線が東京—大阪間を三時間十分で走っているのにくらべ、北回り新幹線は三時間二十八分と、所要時間はほんのわずかしか違いません。

太平洋側との格差是正へ

この北回り新幹線の持つ意義は、第一に時間の節約であり、第二は沿線各地の開発を促して太平洋ベルト地帯の過密を緩和し、国土の均衡ある開発と発展に大きく貢献することです。

首都東京は政治、経済、文化などのあらゆる面において日本の中心であり、中枢管理機能と情報が集積しており、大阪もまた西日本の中心としてこれに準じた中枢といえましょう。

情報化時代といわれる今日、東京、大阪とどのようにして直結するか、時間距離をどのように縮めるかがそれぞれの地域や企業にとって最も緊密な課題の一つといえましょう。

県勢発展のかぎにぎる

現在富山から東京へ行くのに特急で約六時間、しかもわずか一往復。これでは私達が東京へ用事に行く場合、最小限一泊ないし二泊を要します。これでは、誰でも気軽に行くというわけにはいきません。

このことが他の地域、他の企業に比し、倍の努力をしなければ、発展できないわけです。

新幹線が出来ますと、富山から東京まで一時間半、大阪まで二時間、このように時間短縮がはかられると、東京、大阪へ出かけるのも隣の町へ出かける程の気軽さで、誰でも行くことができるのです。

こうなりますと、富山も東京も大阪も同一の行動圏となり、東京、大阪での出来事も遠いところの話ではなく、身近かとなり、地域開発上あるいは産業の発展上非常に有利になります。

北回り新幹線の担う役割の第一にあげた時間の節約は、このような観点からみた場合、富山県にもたらす効果というものは計りしれない大きいものがあります。

北回り新幹線の構想

観光開発にも一役

北回り新幹線の計画沿線は、他の沿線に見られない天然の景勝に富み、かつ行楽適地を数々有しているので、今後の観光開発が期待されます。国際的な立山を中心とした北アルプス連峰を持つ富山県と、東京、大阪の大都市と直結することによって、観光客の飛躍的増大が期待されます。

対岸貿易拠点の早期実現に拍車

また、過密に悩む東京、大阪ではすでに企業の立地が制限されているのと、労働力の不足のため、近年は土地と労働力を求めて企業の地方進出が進んでいます。

こんご北回り新幹線の開通、高速自動車道の完成などによって、輸送条件が画期的に改善されますと、沿線地域へ東京、大阪からの巨大な経済エネルギーの進出が予想されます。

またそれは、資源の豊富なシベリヤに近い富山新港などを持つ富山県の、対岸貿易と結びついて、日本海側における食糧、生産、工業、対岸貿易の大きい拠点としての発展を約束してくれるものです。

このように北回り新幹線は、富山県にとって県勢発展のきめ手となるものです。しかし、鉄道建設予定地には、四二㌔におよぶ世界最長のアルプストンネルなどは、工事が長期間にわたることも予想されますので、一日も早く着工し、早期完成を期したいものです。（企画室）

宅地造成を制限 スプロール防止に 主に市街化調整区域を対象

このたび、都市計画法が改正になり、開発許可制度が創設されました。

その目的は、市街地周辺の無秩序なスプロール（虫くい現象）を防止するとともに、都市施設を整備して、公害などによる環境の悪化をなくし、住みよく活動しやすい街をつくろうとするものです。

富山市など九市町村が該当

こんどの改正では、広域都市計画区域が指定され、本県では富山市、高岡市、新湊市、舟橋村、婦中町、小杉町、大門町、下村、大島町の九市町村を一つとする都市計画区域が指定されました。

この都市計画区域を区分して市街化区域と市街化調整区域が定められます。

市街化区域は、優先的、計画的に市街化を図るべき区域とし、市街化調整区域は市街化を抑制すべき区域としています。

この区域区分設定のため県と市町村で現在協議中ですが、この区域の線引きが決まりますと、開発行為、（たとえば、宅地造成など）は許可がない限り、自分の土地であっても自由に行なえなくなる わけです。

これは、市街化区域内においては問題はないのですが、市街化調整区域内が主に規制の対象となります。

市街化調整区域内での許可

しかし、市街化調整区域内であっても特別なものは許可されることになっています。それは周辺の住民のための日用品の販売や修理に要する店舗。鉱物資源などの利用上必要なもの。調整区域内で産する農林水産物の処理に必要なもの。県が助成する中小企業の共同化に寄与するもの。調整区域内の既存事業と関連する事業で、効率化を図るため必要なもの。区域決定時に

きれいに整備された太閤山地区

自分の住宅や業務に使用する目的で、土地の所有権、利用権を有していた者が区域決定時から六カ月以内に届け出をし、その目的に従って五年以内に宅地造成などを行なうもの。開発審査会の協議を経たもので、開発区域が二〇㌶以上であって、かつ計画的なもの、および開発区域周辺の市街化を促進する恐れがなく、市街化区域内で行なうことが困難または著しく不適当なものとなっています。

許可を要しないもの

ただし、許可を受けなくても開発行為のできるものがあります。それは、市街化調整区域では、公益上必要とするもの、国、県、指定都市などが行なうもの、都市計画事業、土地区画整理事業、非常災害の応急措置を要するもの。農林漁業用とこれらの居住用に供するものなどとなっています。

このほかに、市街化区域内の一、〇〇〇平方㍍未満のものも許可はいりません。

こんな場合には届け出を

区域の設定がきまっても、市街化調整区域内で、既に宅地化が終っている土地などでの建築も、開発許可の規準によって建築制限を受けることになりますので、注意が必要です。

また、調整区域内で既に自分の業務や住宅を目的として土地を購入していた場合は、区域区分が決定したときから六カ月以内に、必ず知事あてに所定の届け出が必要となります。

この開発行為の規制に関するくわしいことは、県庁建築住宅課で行なっていますからお問い合わせください。

（建築住宅課）

☆　☆

みんなの県政

交通事故

人生を狂わせた飲酒運転

加害者の実例にみる

飲酒運転の防止については、国民あげて追放を呼びかけているところですが、よく飲酒運転事故によって、尊い人命が失なわれ、傷ついています。

「おれほどのものが……」「おれに限っては……」「これ位は大丈夫……」という安易な考えから、とり返しのつかないはめにおちいり、平和な家庭が一瞬のうちにどん底に。

これは、他人ごとではないのです。被害者ばかりでなく、加害者もある意味の被害者になります。ここに加害者の苦しんでいる実例を、紹介しましょう。

運転経験十二年の職業運転者で、高校二年の長男と、中学二年の長女と四人暮し。分譲住宅に居をかまえてから六年間、自家用車を持って、ささやかながら楽しいKさん（四二才）一家でした。

ところがある日、会社の慰安会で約二合（三・六㍑）位の酒を飲み、ほろ酔い気分で会社まで帰り、約一時間ぐらい休んだあと、Kさん自身、たいして酔っていないと自己判断し、愛車を運転し、妻子の待つ家路を急いだのです。しかしアルコールのききめはてきめん。注意がおろそかになっていたのでしょう。

前方を自転車で行くMさん（三七才）に後方から追突して、重傷をおわせてしまったのです。

その瞬間から、Kさん一家に大きな狂いがはじまりました。かけつけた附近民に警察への連絡を依頼し、すぐ病院へ救護したのですが、Mさんは意識不明のまま手術室に運ばれたのです。

Kさんは、そのまま身をかくしたい衝動にかられ、病院の玄関から飛び出したのですが、やはり良心の呵責にせめられ、Mさんの容態にオロオロするばかり。

そのご事故現場で警察の実況検分が行なわれましたが、なにぶんにも酒を飲んでいたため、現場には急制動のあともなく、Kさんとして弁明の余地もありません。ただぼう然として、こんごのMさんに対する保償方法と、自分の家庭のことばかりに悩んでいる状況です。

幸いにもMさんは一命をとりとめたものの、左下腿骨折、頭蓋内出血、腰部打撲の入院治療三カ月の重傷のまま、親近者に見守られ、病室の人となりました。Kさんは、親近者に、ののしられながら、まんじりともせず一夜をあかしたのです。

翌日Kさんは妻とともに心ばかりの見舞金をもって、平身低頭してお詫びに行ったのですが、Mさん側のいい分は「酒のみ運転で大事な大黒柱をこんな目にあわせて、しかも一生の不具者になるかもわからないし、こんごのことを十分考えてもらいたい」と打ちひしがれたKさん夫婦に追い打ちかけるような怒りのことばを浴びせられ、ただ、だまってうなだれるだけでした。

会社は解雇同様 泣きつらに蜂

一方、Kさんの会社側では、勤務外の事故として、いっさい面倒をみず、ただ家庭の状況をくんで解雇処分は免れたものの雑役夫（臨時雇用と同等）に回され、収入も従来の半分になりました。Kさん一家にとっては、泣きつらに蜂どころの話ではありません。

毎日恐ろしい事故が……ひとりひとりが注意したい

飲酒運転では 保険が出ない

今までと違って、Kさん一家は、話しあいもとだえ、おたがいに黙り合って、冷たい空気が張りつめたまま。一週間もたったころ、知人の教えを受けて、たのみとする事故保険手続きをしたのですが、任意保険は飲酒運転事故の対象とならず、被害者請求の自賠法による保険のみで、しかも、最高の金額にしても五〇万円より受けられません。

この金額ではMさんの医療費、看護料、入院諸費、休業補障などを計算しても、とうてい弁済できる金額に及びもつきません。

とくにMさんの毎日の治療代については、一日一万円以上の高価となる日もあり、Kさんとしては手持ちの動産を全部投げ出しても及ばない、経済的負担を招くことになったのです。

親せきに援助をお願いしたものの、兄弟は他人より悪く、ほとんど親身になって経済的援助をしてくれる人がいません。Kさんは全く途方に暮れてしまったのです。

一生被害弁済に明け暮れ

Mさんは三カ月以上も会社を休まなければならず、その休業補障や、医師認定による後遺症保障などを考えあわせると、こんごのKさんにとっては、一生Mさんに対する被害弁済のために生きて行くような結果となってしまったのです。

事故後一年を経過した現在に至っても、Mさんは従来の仕事につけず軽業勤務となり、月収もすくなくなったため、Kさんに対する要求は額もふえ、強くなるばかりです。

加害者も被害者

一年たった現在、白髪も目立ちやせおとろえたKさんは、当時の悪夢がまだ消え去らず、涙ながらに悔い、「身から出たサビとはいいながら、私の現在あるのはMさんに対する償いのために一生懸命働いているだけ。ほかに、欲、得はありません。しかし、だんだん年をとるし、妻や子供にもあわせる顔がありません」と沈痛な面持ちで、ことばすくなに語っています。

交通事故には、加害者と被害者がありますが、一度事故を起したならば、経済的、精神的、肉体的にも加害者はなくなり、双方とも被害者になることをよくよく考えなければなりません。

今までの生活設計の土台を根本から崩してしまい、一家を全滅にするのが交通事故です。今日は他人の身とはいいながら、明日はわが身にふりかかるかも知れません。年末を迎えての飲酒運転の追放に、県民ひとりひとりが深く自覚しなければなりません。

（県警交通課）

雪を克服する

雪のない富山県に

電気や水を利用

北陸では、冬になると、雪との闘いは、宿命であるというあきらめムードがあるようです。

県では、地域格差の是正のためには、冬期交通の確保こそ最も重要な命題として、第四次県勢計画の中に大きな柱として位置づけし、いわゆる無雪道路の実現に懸命の努力を払っております。

道路の無雪化は、機械力を主体とすることはもちろんですが、さらに積極的に、雪が積もる前に融かす方法、つまり、電気や水を利用して融雪する方法についても、県内数カ所において、試験施工、調査研究に努めています。

地下水利用の融雪装置（県民会館前）

融雪施設の研究

そこでこの無雪県を実現しようと、新たに県庁の道路維持課内に、雪寒対策係を設けて、効果的な道路融雪の方法を調査研究しています。

雪が積もる前に、融かす方法として、次のようなことを考えています。

地下水利用……地下水利用の散水パイプによる方法は、昨年、県民会館前に、約一〇〇㍍を試験的に施工し、ことしは、県庁前庭など三カ所で工事中ですが、井戸を掘るため、附近の水脈の調査をして、附近の井戸に影響を与えないよう配慮しました。この方法では、道路の幅や水温、気温による融雪効果などを調査しています。

温水パイプ……温水パイプによる方法は、来年度、工場廃熱を利用して試験をすすめます。

ロードヒーティング……電熱ケーブル埋設によるロードヒーティングは、昨年、富山市永楽町交差点で実施し、常時通電、ピークカット通電、深夜通電の三通りに分けて試験しました。その結果、ピークカット通電がもっとも融雪効果のあることがわかり、北陸電力料金割安の措置もあって、本年度は、富山市中町電車通りと高岡市末広市北陸銀行横の二カ所で施工することにしています。

赤外線利用……目下、電気メーカーが懸命に試作研究している状況で具体化はしていません。

以上のほかにも、地下水には限度があるので、川の水を利用できないか、その水温と気温、放出量あるいは、加熱しての可能性など、色々と方法を研究しています。

交通の確保

ことしは、山間部の交通確保のため、なだれ防止にスノーシェッドやなだれ防止柵を一一カ所設置したほか、散水パイプによる消雪装置を二カ所八五〇㍍実施しております。

凍結や雪融けのため、自動車が道路を破壊しないように、路盤改良を五カ所四、三五〇㍍、流雪溝を九カ所三、〇二〇㍍設置しました。

除雪機械として、除雪ダンプ五台、ロータリー車三台、グレーダー二台を購入しております。

なお、除雪機械は、建設省が二七台、県が九三台出動態勢を整えており、必要に応じて、市町村や民間会社の機械六八四台の出動も要請することにしております。

バス路線八七%を除雪

今冬の除雪道路計画延長は、一、五三二㌔で、前年に比べて二七八㌔と大幅に増やして、県内の道路延長二、二八二㌔の約六七㌫が除雪され、またバス路線では、その八七㌫が除雪されることになります。

このうち、国道八号線と四一号線の全線、国道一五六号線のうち、高岡市広小路～庄川町金屋間、一六〇号線のうち高岡市四屋～氷見市新町の区間など合計一六四㌔が建設省の除雪区間です。

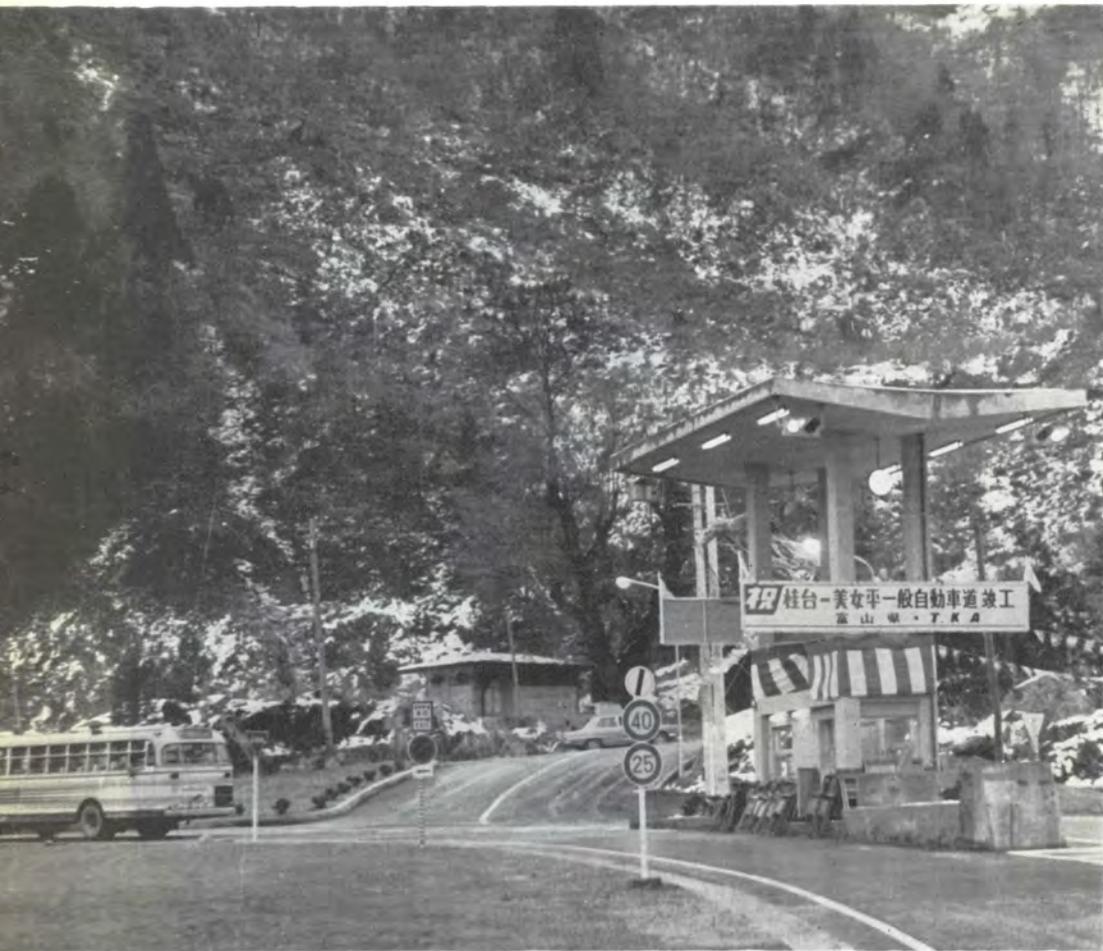
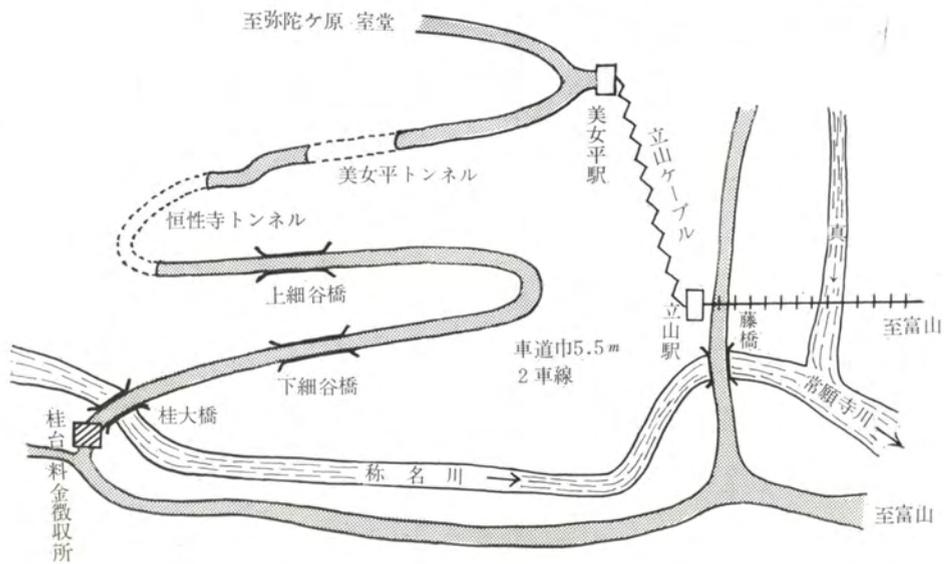
国道であっても県が管理している一五六号線の平村大崩島～上平村西赤尾間、一六〇号線の氷見市新町～石川県境間及び三〇四号線の城端町大鋸屋～石川県境間の三路線で六〇㌔があります。

従って、県道一、三〇八㌔を含めて、県の除雪担当延長は一、三六八㌔になります。

（道路維持課）

マイカーで雲上へ

桂台―美女平一般自動車道完成

難工事に加えて再度の災害で、遅れに遅れた桂台―美女平間（五・五キロ）一般自動車道が遂に完成。十一月二十五日午後二時から、立山町芦峅寺桂台の桂大橋前で、完成式が行なわれた。

式には、中田知事、鹿熊県議会副議長、佐伯TKA[illegible]長ら関係者一五〇名が出席して行なわれ、中田知事と佐伯社長が桂台の料金徴収所前でテープカットを行なったあと、貸し切りバスなど数十台の車をつらねて、快適に処女ドライブ約二十分で、美女平に到着。

完成した道路は、立山黒部観光ルート整備の一環として、険阻な山腹斜面を開さく。四十一年六月以来四年半の歳月と[illegible]億八、〇〇〇万円が投入された。

これで立山ルートは全線開通したことになり、富山から乗り物のまま雲上立山を経て、黒四ダムから長野県大町へ抜けることになった。一般への開放は来年六月の予定。

美女平でテープカットする中田知事ら（右から鹿熊副議長、中田知事、佐伯社長）

自動車道入口の桂台料金徴収所

桂台・美女平間一般自動車道略図

道路の上に道路というけわしい山腹をぬってバスは走る

漁業二十年を省みて

沿岸漁業を中心に発達

本県は、日本海沿岸のほぼ中央に位置し、凹形の単調な海岸で、延長は九四㌔あります。

この海岸線には、約五、〇〇〇人の漁民が住み、相当の漁獲をあげています。昭和四十三年の漁獲量は四万七、〇〇〇㌧、漁獲高は六四億円となっています。

富山湾は、日本海最大の湾であり、かつ非常に深く、湾中央部の水深は一、三九〇㍍に達し、海底勾配も大きく、大陸棚の発達が悪く、岸深かであるので、水産養殖の適地に乏しい。とはいえ、湾内には暖流系（海流）と日本海固有の深層水が複雑に交錯し、魚族の回遊に好適な条件を備え、豊富な資源があり、環境に恵まれているといえます。

定置網で全国各地へ

富山県の海面漁業は、沿岸漁業を基盤として発展し、その沿岸漁業では、大小の定置網漁業と地びき網が中心でした。

ことに定置網漁業は、富山湾の地形に最も適合した漁業であり、わが国の紡績業の発達に伴って次第に、大型化しました。

この定置網業を大型化に導いたのは、氷見市阿尾の故上野八郎右衛門（一八七七～一九三九）で、同氏の考案による「上野式ぶり台網」によって、定置網漁業は急速に近代化しました。

この定置網によって、本県の漁業者は広く全国へと出漁しました。

定置網漁業は、地元優先性の強い漁業であるといわれていましたが、富山県人の根性と順応性によって、地元優先の壁を克服して全国に進出していました。ところが、昭和二十四年の新漁業法の公布によって、漁業権を失ない、多くの人たちが涙をのみました。

地びき網の衰退

一方、地びき網は工業の発達によっての沿岸水の汚濁や海岸の浸蝕、漁船漁業の発達、労働力の不足などによって、昭和二十六年以降急速に衰退しました。

この地びき網漁場のあとへ、石をしずめて、てんぐさ、わかめなどの漁場に転換したところもあります。

これからの傾向

本県において定置網漁業は、なお、沿岸漁業の大宗ですが、数次の漁業権の切換えを通じて次の傾向があります。

①漁場の統合による合理化
②経営の統合と大型化
③操業期間の延長

この傾向は、従業者の減少と老令化の反面、合成繊維の普及と漁業法の意図する定置網漁業の民主化、企業性の向上によって支えられ、こんごもなおこの傾向が続くものと思われます。

漁業の近代化へ本腰

沿岸漁業振興のため、国は生産、流通、加工の各方面にわたって、色々施策を行ない、大きな成果を収めましたが、事業相互間の連係とか、将来の進むべき方向に不十分な点がありました。

そこで、国民経済の高度成長に即応して、他産業の計画とも十分な関連性を持たせながら、漁業技術の進歩発展と漁場利用の合理化によって、沿岸漁業の体質を改善して、企業的経営にまで育成していく必要があります。

それには基本的な各種の施策を強力に推進し、他産業従事者との所得格差を是正し、生活水準の向上を図ることです。

そこで国では、昭和三十六年から沿岸漁業構造改善事業を実施し、本県は昭和四十一年に調整地域として指定を受けました。昭和四十二年から四十五年まで県内二一漁業協同組合が、漁船や船具の保全施設、水揚げ

荷さばき施設、加工施設、製氷冷蔵施設などを二億五、〇〇〇万円（うち国の補助七、三〇〇万円）で充実し、その効果はぼつぼつあらわれてきています。

新漁獲法に努力

また、漁船漁業については、昭和二十七年に氷見の漁業者が「四そう張網漁法」を考案。三十二年には新湊で火光利用の「そうだかつお刺し網漁法」を考案。三十七年に魚津市の故浜多虎松が「かにかご漁法」を考案して、全国的に普及しております。

このほか、吾智網漁法、さより刺し網漁法、さすこぎ刺し網漁法、かざみかごなわ漁法などを導入し、漁船を大型化、近代化し、個人経営から協業組織に参加するなど、熱意と意欲、創意工夫をして、所得向上に努力しています。

栽培漁業へ意欲もやす

しかし、近年における第二次、第三次産業の発展に伴なって、工場排水による水質汚濁など悪条件が加わり、魚族資源の減少、回遊魚種などに変化をきたしています。

そこで魚族資源の維持増大を図るため、日本海栽培漁業事業化推進準備会が昭和四十四年九月に、日本海側の青森から山口県まで一府一一県が参加して発足し、本県に事務局が設置されました。

これは、魚族の人工種苗や天然種苗の中間育成を行ない、日本海沿岸一帯の適地へ継続的に放流して、漁場の拡大を図ることや、種苗生産技術開発と推進母体の組織化をねらいとしたものです。

このように戦後の本県水産業のあゆみをふりかえってみますと、昭和二十三年～二十五年は、生鮮水産物の配給統制の廃止、漁業資材の自給化、水産業協同組合法、新漁業法など一連の漁業関係法令の施行によって、水産業界は戦後の混乱期を脱出し、発展期に入りました。

各地で養殖さかん

昭和三十三年～三十六年ごろは漁業法改正、沿岸漁業等振興法、水質工法などが施行され、沿岸漁業構造改善事業が四十一年から実施されるとともに、養殖技術の改良によって、はまち、わかめの養殖が湾内の各地に広がりました。

しかし、沿岸水域が産業の発展によって汚されつつあります。また、一般の食生活の改善と労働力不足が圧力となり、こんご本県の漁業は、現在水産試験場でも試験研究を行なっていますが、栽培漁業の推進と水質保全が大きな課題となるでしょう。

（水産課）

漁港の整備

いうまでもなく、漁港は水産業の基地です。いわば県民に動物性蛋白質を供給する基地であるわけです。

近年の漁業情勢は、次第に変わりつつありますが、とくに動力漁船の増加と大型化は著しいものがあり、現在の漁業施設では、これらの需要を満すことができません。

五年間で一八億円投入

そこで漁港を整備するため、第四次漁港整備計画（四十四年～四十八年、五カ年計画）によって、修築事業や改修事業が行なわれています。

ここにいう修築とは、一漁港あたりの事業費が一億円以上をいい、改修とは、三、〇〇〇万円以上一億円未満のものをいいます。

県内では、新湊、氷見、黒部、経田の四漁港が修築事業で、滑川、水橋、宮崎、入善、四方の五漁港が、改修事業によって整備が進められています。

これらの整備に要する第四次漁港整備計画の総事業費は、一八億五、七〇〇万円が投資されます。

このほか、局部改良事業や漁港関連道整備事業によって、局部的な改良や漁港に通ずる道路の整備を行なっています。

この費用の二分の一は国、残りの二分の一は、県と市町村で分担しています。

このように漁港の整備によって、ますます水産業の近代化が進められます。

12月の解説

師走

十二月のことを和名で、「師走」といいます。師というのはお坊さんのことで、「奥儀抄」という本に「十二月僧を迎えて経を読ませ、東西には、せはしがる故に、師走月というをあやまれり」とあります。

俗説には、十二月ともなればひごろ、おっとりしている師匠さんも〝借金の整理に追いまわされる〟あるいは〝貸したお金を集めに走り回る〟の師走というのだろうと、違った説もあります。

また、「為果つる月」がなまったことだとか「四時のはつる月」とか諸説もあります。

いずれにしても十二月は、一年のしめくくりをする月です。

対外的には、借りたお金などは、例えわずかであっても返しておきましょう。とかく忘れがちな本なども必ず所有者に返しておきましょう。

企画室

明るく豊かで住よい郷土は、県民の願いです。こうした郷土をつくるための青写真ともいうべき第4次県勢総合計画が、県内外の衆知をあつめて去る8月に完成しました。

この計画は、昭和60年代における望ましい県民生活の内容と、これを実現するためのいろいろな開発計画からなっています。

企画室は、この計画を実施するための具体的な対策の調査、計画、促進を図るため、10月に設けられた新しい室です。

企画室では、従来、総合計画部で所管していた富山新港建設を中心とする富山・高岡新産業都市の建設促進。新川・南砺地区の開発。過疎地域、山村地帯など、開発が遅れ、人口減少の激しい地域の開発振興。広域開発として共通の利益で結ばれている北陸三県共同で進めている北陸地方の開発促進。東海と北陸を一体として均衡ある開発発展を目指す中部圏の開発整備。大平洋沿岸との格差是正を目標とする日本海沿岸地帯の開発などの仕事を引継きました。

このほかに、新しい仕事として、東京—富山—大阪を3時間半で結ぶ北回り新幹線鉄道、大阪や名古屋と結ぶ北陸、東海北陸両自動車道など、基幹交通網の整備。最近不足がちな水道用水、工業用水などの対策としての河川水、地下水の総合的な開発利用。北陸地方の発展の最大の障害となっている雪対策。行政サービス向上のための機構や仕事の改善などから、大きい開発計画や課題の調査、調整、計画の策定、実施の促進などが主な仕事となって加わりました。

旧館3階北側にあります。

県庁の機構紹介

あなたのコーナー

ご質問に答えて

聞こう 知ろう 確かめよう

こんな場合どうしたら？　これはなんとかならないか……。このページは、みなさんのご質問にお答えする「あなたのコーナー」です。どなたもお気軽にお問い合わせ下さい。

あて先は　富山市新総曲輪一ノ七　富山県庁県民課

過疎地域の教職員定数に特別配慮を

問　ここ数年、生徒数は激減し、それに比例して、先生の定数もへらされ、複々式学級となり、進学を心配する父兄は町に出るといった悪循環がくりかえされている。

過疎対策として、先生の基準定数を特別に取扱えないものか。

答　本県の教員定数は、小・中学生の減少に伴って年々減少し、本年も昨年に比べて、八〇名以上の減少となっています。

文部省も新しい教員の数を定める標準法で、過疎地域に対する教員配置についての配慮をしており、昭和四十四年から四十八年までの五ヵ年間に、次の表のように改善することになっています。

本県では、表の[illegible]に現時点においてその平均を上回る配置をしていますので、ご了解いただきたいと思います。

区分	文部省基準 43年度	文部省基準 48年度	本県の45年度実態
一学年一学級で編成する場合	四九人	四五人	四七人
二ヵ学年複式学級	二五人	二二人	二三人
三ヵ学年 〃	二五人	一五人	一五人
四ヵ学年 〃	二五人	解消	解消
五ヵ学年 〃	二五人	解消	解消
単級	一〇人	解消	解消

このほか本県では、全国はじめの試みとして三ヵ学年複式の授業充実のため、二五名の講師を採用しています。

また、へき地教科指導員なども配置しており、他県と比較し、より多く配置するよう努めております。

▼特殊教育への適正就学▲

近年、医学、心理学の進歩と教育実践の成果などによって、心身に障害をもつ子供の、障害の種類、程度、能力、特性などがしだいに的確に把握されるようになってきました。

しかし、障害の実態は複雑多岐にわたっており、これに即応する、よりきめの細かい適切な教育体制が必要となってきております。

こうした社会の期待と要請に応え、県としては特殊教育の拡充に努めてきましたが、こんご一層の充実整備を図っていく考えです。

判別と就学指導

この子供たちに適切な教育を行なうためには、適切な「判別」が基礎となります。

判別は、医学的、心理学的、教育学的診断によって総合的に判断をくだ[illegible]ことになります。

その結果に基づく就学指導は市町村が行ないますが、現在のところ、富山市、高岡市、小矢部市、八尾町、婦中町、大島町、福光町に判別委員会が設置され、判別、就学指導を行なっています。

未設置市町村においても、こうした組織の早急な整備が望まれます。判別組織が整備されていない市町村の方は、県教育委員会にある判別委員会や児童相談所で気軽にご相談ください。

（教委・指導課）

> **判別とは**……心身の障害の種別、たとえば、視・聴覚障害、精神薄弱、肢体不自由、病弱虚弱、言語・情緒障害などの程度によって、①就学させるべきか。②就学猶予、免除すべきか。就学させる場合、一般の小、中学校でよいか。③特殊教育を受けさせる場合、盲、ろう、養護学校あるいは、各種の特殊学級のうちいずれに就学させるべきかなどの判断をくだすことをいいます。

あなたも利用できます
学校の体育施設開放

夕食後の余暇を楽しむママさんたち

みんなでスポーツを

社会体育を振興するため、地域住民の健康と体力つくりの場として新しい試みである学校体育施設の開放が実施されて、四ヵ月（八月から）経過しました。

本年度は、県立高校二校（富山中部・高岡）市立小学校四校（黒部市生地・富山市清水町・高岡市下関・砺波市出町）に管理指導者を配して開放しました。利用状況は必ずしも満足できるものではありませんが、従来活動の場を得られなかった人々（特にグループ）には、存分に使用していただいております。

学校体育施設の開放は、全国的にも数少ないのでいろいろ不備な点もありますが、ここで反省をし、さらに推進を図りたいと思っています。

一般の人も進んで利用を

小学校は、個人、団体の別なくいつでも気軽に利用できます。ただ、県立高校の場合は、原則として登録団体（現在は届出すればよい）でなければなりませんが、一般のグループであっても、責任者さえきまっておれば、気軽に利用できることになっております。

利用団体の拡大を

いままでの利用状況をみますと、県立高校では官公庁や会社工場のクラブが主であり、小学校の場合は青年団や婦人会などのスポーツ教室的なもので、いずれも固定された感がありまず。

夕食後家族づれで、あるいは友人を誘って気軽に体育館を訪れるという姿が見受けられないのは残念です。

ふえつつある余暇時間、生活環境の機械化と体力の減退など、現状をよく理解して、積極的に学校開放を利用して健康と体力の増強を図っていただきたいと思います。

体育活動は継続的に

職場や地域にスポーツ大会が計画されておれば各団体とも活動が活発になり、利用もふえてきますが、大会が終ると利用しなくなる傾向がみられます。

健康や体力つくりは僅かな時間でも毎日継続的に実施してこそ効果もあがるわけです。

これからは体力テストをすすんで受け、自分の体力を認識し、スポーツ活動を継続的にやっていただきたいと思います。

来年は十二校開放へ

来年度は、本年度の六校に加え、さらに県立高校二校と市町村立学校四校を、地域のバランスを考慮して開放する予定でありますので、県民の皆さんに大いに利用していただき、楽しみながら体力つくりをしょうではありませんか。

（教委・体育保健課）

北陸農政局
富山統計調査事務所

第2次世界大戦で、大衝撃をうけた日本にとって、たちあがるためには、まず食糧生産であった。

そこで、食糧問題を解決するために、生産の基本となる作物統計を近代数理統計学に基づいて、信用できるものにしなければというマツカーサーの考えから、ヒントを得て生まれたのが、農林省作物報告事務所（現在の統計調査事務所の前身）であった。

統計事業は、農家や農業就業人口、農家経済、農産物の生産費、畜産、養蚕、林業、水産統計などと拡充され、最近は、生鮮食料品の物価対策など、流通統計や情報サービスも行ない、県民の日常生活に深いつながりをもっている。

とくに、ことし6月からキメの細かい地域農政を推進するため、農政局に統合されて、農業の近代化や地域構造分析なども取り組み、県内2,315の農業集落や、地域の農業構造を統計的に分析して、急速に進みつつある農業の機械化、労働生産性の向上にメスを入れこんごの農業の方向に資するための資料提供機関ともなっている。

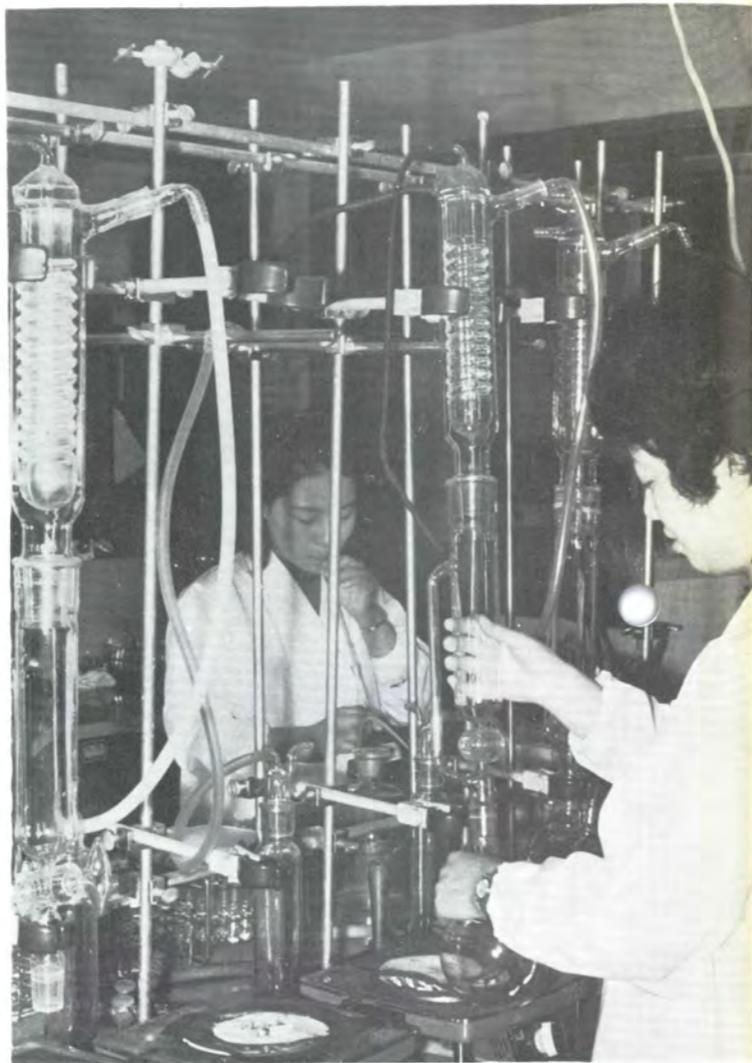
富山市西山王町6の3に本所をもつほか、富山、高岡、魚津、福野に出張所を配している。

国の出先機関紹介

県民の健康を守る

富山県衛生研究所（富山市大手町）

最近は、チクロなどの食品添加物や各地で公害が発生し、調査や研究にと急に忙しくなったのが、衛生研究所。

まず、細菌やウイルスなどに起因する原因の検索や診断、予防、治療法の研究を行なっている。食中毒や赤痢などは、真冬でも発生するので、寒いからといって楽観できない。いったん発生すれば、直ちに現場へ飛び、保健所と連絡をとって、消毒や検便を行ない、被害を最少限にくい止める。

食品については、添加物、容器、包装などを調査して、安全に生活できるよう病気の未然防止につとめている。

公害については、水銀、カドミウム、その他の金属の含有量を大気、水、土を通じて試験すると共に、人体に及ぼす影響を研究している。

一方、イタイイタイ病の病因問題や臨床検査、公害汚染の恐れある地区住民の検診を行ない、尿や血液の検査が行なわれている。

また、生活に欠くことのできない飲料水や温泉水の検査など、複雑多岐にわたって百万県民の健康を守るための調査研究機関として、四〇余名の所員が毎日取り組んでいる。

▲毛髪に含むカドミウムを分析

▼ただいま細菌培養中

▲カドミウムの含有量を検査する

▲顕微鏡室では細菌やウイルスなどを調べる

◀こんなにバイキンが……これは手を洗った後に顕微鏡で検査したものですが……

越中史夜話（第19回）

鏡とぎ師

橋本芳雄（県史編さん室）

いまの鏡はガラス製で安価であるため、一軒の家にいくつでもあるが、むかしの鏡は白銅製で高価であり、たいそう貴重品であった。

拾遺和歌集 巻第八 雑上に、次の歌がある。

大江の為基が許に、うりにまうで来りける鏡の、包みたりける紙にかきつけてはべりける

よみ人しらず

けふまでと見るに涙のます鏡
馴れにし影を人に語るな

その意味は、こうでもあろうか。大江為基の家へ鏡を売りに来た者があったので買い求めた。鏡を包んであった紙を開いて見ると、次の歌が書いてあった。「きょうが鏡との最後の別れだと思うと、涙が増してわいてくる。永年使い馴れた鏡であるから、新しい持主の所へ移っても、もとの持主の面影が鏡の面に浮かび出るかもしれない。それでは恥ずかしいから、そんなことのないように頼むぞよ」

むかしは栄えていたが、不運がつづいておちぶれた家があった。朝晩の炊事の煙さえ途絶えがちな草の庵である。財産は売りつくして、いまやむかしをしのぶものとしてはこの鏡があるのみ。この鏡だけは、親のかたみとして手放すまいと思っていたが、これも売らねばならぬ運命となった……こういう哀れな心境を詠んで、鏡の包み紙に書きつけたのがこの和歌であった。

古代においては、鏡は単に顔をうつす道具でなく、持主の霊魂の宿る神秘なものとされていた。「やたの鏡」が皇位継承のみ印となり、伊勢皇大神宮にまつられているのは周知のことである。古墳からしばしば鏡の出土することがあるのは、やはり霊物視されていたからである。いまでも様々の神社において、鏡をみたましろとしている所が少なくない。

江戸時代の白銅製の鏡
左は表、右は裏面

むかしの鏡は白銅鏡であるから、永年たつと曇りが生じ、顔がよくうつらなくなる。それで時々みがいて曇りを除くのである。しかし素人がみがくと傷だらけになるので、専門の職人にたのまねばならぬ。その職人を「鏡とぎ師」といった。越中氷見地方には、この鏡とぎ師が大ぜい住んでいた。農繁期には米つくりに精を出し、秋の取り入れが終ると、五名ないし十名くらいで集団をつくり、全国各地へ鏡とぎ巡業に出かけたのである。

かくして冬百日の間に全国各地を回り、三月のはじめに帰郷し、また農耕に精を出すのを通例としていたのである。

鏡とぎの職人が出た村落や人数については、正確な資料はないが、氷見地方の灘浦・八代谷・余川谷・旧氷見町周辺・西条地区など、約四〇カ村（氷見全体で一〇〇カ村）から出ており、人数は千二、三百人あまりであった。その行先は、西は摂津国から東は関東一円にわたっている。日本全国の半分くらいを縄張りにしていたのである。

仲間には親方がいて、統率した。親方はたいてい一巻の縁起書を携行した。「鏡磨縁起」には現存するものでも三、四種あり、いずれも鏡の起原より説きおこし、技術を神秘化するとともに、その職業を神聖なもの、権威あるものとして誇示している。鏡がもともと神聖なもの、神秘なものとされていたのであるから、これを磨く職人も心を清浄に保たねばならぬのは当然のことであった。鎮守社の神鏡を研磨することを依頼されることが、しばしばあったのはいうまでもない。

明治になってガラス鏡が輸入されると、たちまち全国に普及し、氷見の鏡とぎ師は廃業せざるを得ぬようになった。しかしそこはうまくしたもので、彼らは小間物行商に転向した。今日においても氷見地方から行商集団が全国各地に出かけて、活発な活動をしているのは、鏡とぎ以来の伝統を負うものである。

平村相倉合掌集落（昭和41年に国の指定文化財になっている）

650年の歴史をもつ「不滅の火」

富山県の自然(23)

合掌造りと不滅の火（平村）

五箇山（赤尾谷、上梨谷、下梨谷、小谷、利賀谷の五つの谷間の総称）は、むかし平家の落人が隠れ住んだといわれる秘境である。南北朝の時代には、南朝方として重要な役割りが果され、加賀藩領となっては、煙硝製造の秘命を受けたり、流刑地として政治犯が送りこまれたこともある。

五箇山はいま、平村、上平村、利賀村と行政区画を別にしているが、山また山の交通不便な地方であったので、古い時代の生活がそのまま残されていたり、合掌集落が昔のたたずまいを見せ、優雅な民謡が保存されている。

城端から、人喰い谷、細尾峠の紅葉を眺めながら、最初に訪れる集落に梨谷がある。そこには六五〇年火種がたえたことなく、今日なおもあかあかと燃え続ける「不滅の火」がある。

その昔新田義貞の一族が、越前・美濃で戦い破れて遁入してきたと伝えられ、五箇山へ落ちてきた敗軍の中に、九頭龍川岸に刀を鍛えていた刀鍛治（刀匠）がいた。これが梨谷部落の山崎家（屋号は甚三郎）に身を寄せ、三代八〇余年刀鍛治をしていた。

山崎家では、この刀を鍛えた火を清浄なものとして尊び、火種を聖火として守り続け、たやしたことなく、今日に伝えてきた。きょうもまた「不滅の火」は、あかあかと燃え続けている。

ウソツキ製品などに
惑わされないために

**お買いもの相談は
消費生活相談室へ**

富山県民会館1階南側に設けられた県消費生活相談室では、専門の相談員3人が常駐して、お買いものの知識や苦情相談に応じております。どなたも気軽にご利用下さい。

日曜日の朝はテレビで県政を

テレビ みんなの県政
（毎週日曜日）

県政の広報事項を、フイルム構成および対談で放送します。

北日本放送（7:35～7:50）	富山テレビ（7:30～7:45）
12月6日　13日　20日	12月27日

みんなの県政　12月号　昭和四十五[illegible]二月一日発行（第二十四号）
編集発行　富山県県民課　富山市総曲輪一番七号　電話富[illegible]四一一一　郵便番号九三〇
印刷　中越印刷製紙株式会社